

こいずみ
小泉 あつし
報

香川県議会議員・無所属・議会/県政報告

2025
- 第八号 -

声なき声に耳を澄ませて

みなさま、こんにちは。小泉敦です。
年に4回の定例会を重ね、議員としての活動も3年目に
入りました。
これまで本当に多くの出会いと学びがありました。

毎回、質問のテーマを選ぶときには悩みますが、私の中
で揺るがない軸は「現場の声に耳を澄ませること」です。
障害のある方のご家族、ひとり親家庭の方、ご高齢者や
子育て中の保護者、学校の先生や福祉・医療の専門職、
町の職員や中小企業で働く方々など、できるだけ幅広い
立場の方々とお話ししています。

なかでも大切にしているのが、「困っているけれど、
声を上げることがない」「どこに・どう伝えればいいの
かわからない」といった「声なき声」。そうした声に耳を
傾け、県政に届けるこそが議員としての大切な役割
だと考えています。

質問を組み立てるときは、「県として何ができるのか」
「裁量があるのに活かされていないのではないか」とい
った視点で問い直し、誰かを責めるでもなく、見て見ぬ
ふりもせず、立場の違う相手にも背景や思いを理解しよ
うと努めています。

これからも私は、皆さんと共に香川を前に進め、声を
上げられずに困っている人のそばに立ち、代弁者であり
続けたいと思います。
小さな声の奥に潜む社会の歪みを拾い、丁寧にすくい上
げ、県政につなげていく——それが私の役目です。

3年目も、どうぞよろしくお願いいたします。

小泉あつしが所属する委員会

●文教厚生委員会

●県立アリーナ整備等に関する特別委員会

*2025年4月現在

令和7年2月議会の小泉あつしの質問（文教厚生委員会質疑応答）

1. 官民連携の取組みについて
2. プレコンセプションケアについて
3. いじめの重大事態について
4. 調査書における欠席日数の廃止について
5. 医師会との連携による「命の教育」について

質問

介護分野での官民連携について

介護予防やがん検診などで、民間事業者との連携を高めるPFSやSIBの仕組みを導入できないか質問しました。

PFS（ペイ・フォー・サクセス、成果連動型民間委託方式）とは：医療や福祉の社会課題解決のために、成果指標を設定し、成果に応じて委託費等を支払う仕組み。民間事業者のノウハウの蓄積を生かし、より高い成果に向けた意欲を引き出すことが期待されている。SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）とは：PFSの仕組みに、投資家や金融機関からの資金提供を組み合わせたもの。

答弁

香川県では、介護予防やがん検診における成果連動型民間委託契約（PFS・SIB）の導入実績は現時点でない。過去にがん検診の受診率向上策としてSIBの導入を検討したが、市町との合意形成の難しさや資金調達・契約スキームの複雑さ、中間支援組織の設立が必要といった課



題から導入には至らなかった。ただし、全国では112件の事例があり、民間の創意工夫を活かせるメリットが指摘されている。一方で、通常契約にない事務負担や調整の難しさといった課題も報告されている。今後は、高齢者の健康増進策の一つの選択肢として関心を持ち、他県事例を参考に市町との意見交換を行いながら、既存の契約方式と比較しつつ、費用対効果を見極めて検討していきたい。

質問

プレコンセプションケアについて

子どもを持ちたいという希望がある一方、平均初婚年齢や初産年齢が上昇しています。高齢での出産はリスクが高まり、日本では、夫婦の約4.4組に1組が不妊治療を受けています。プレコンセプションケアの推進について、県の取組みを聞きました。

プレコンセプションケアとは：妊娠前に行う健康管理。WHOは「妊娠前の女性やカップルに医学的・行動学的・社会的な健康介入を行うこと」と定義しています。

答弁

香川県では、若者の心身の健康管理を支援するプレコンセプションケアの推進に取り組んでおり、特に高校生を対象とした教育に力を入れている。

昨年度の調査では、県内の高校生3年生の約7割が「将来子どもを持ちたい」と回答しており、全国平均より高い。このような希望を支えるため、県では助産師によるライフデザイン講座を高校の家庭科の授業で実施し、妊孕力の知識や相談窓口の紹介などを行っている。令和5・6年度には計約1,600人の生徒に講



座を実施し、理解を深める補助教材も配布された。加えて、専門学校や企業、県の研修等でも講座を展開している。また、不妊・不育症相談や性と健康に関する電話相談、啓発チラシの配布なども行っているが、プレコンセプション健診の実施には至っておらず、若年層への周知啓発を重視している。他県のように検査費用助成を行う例も参考にしながら、今後の方策を検討する方針である。

加えて、HPVワクチンの接種率が依然として低いため、広報やSNSを活用し、予防の重要性を訴えていく。男性への啓発も含め、国の動向を見据えながら情報提供を進めていく考えである。

いじめの重大事案について

2023年度のいじめ件数は、約73万件と増加しています。昨年度文科科学省の「いじめの重大事案の調査に関するガイドライン」が改訂されましたが、学校現場でどのように活用されているか、また、県教育委員会と市町との連携について聞きました。

文部科学省による「いじめの重大事案の調査に関するガイドライン」の改訂を受け、香川県ではその内容を各学校へ周知し、オンライン説明会や教職員向けの研修会を通じて理解の促進に努めている。ガイドラインには、平時の備えや調査時の基本的対応をまとめたチェックリストも含まれており、学校現場ではこれを活用して適切な対応が図られている。いじめの重大事案が児童生徒や保護者から申し立てられた場合は、事態把握前であっても重大事案として扱うことが求められ、学校いじめ対策組織が調査を行うこととされている。学校や設置者は児童生徒の保護を最優先に判断・対応しており、県教育委員会も市町教育委員会からの相談に応じて、必要に応じて国とも連携しながら指導助言を行っている。今後も引き続き、県と市町が連携し、適切な対応体制を維持していく方針である。

調査書における欠席日数の廃止について

不登校児童生徒は約36万人と、10年連続で増加し過去最多となりました。文科省は「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COLOプラン）」で子どもたちを支援することを示しました。せっかく保障された学びの場で良い成績を収めても、高校入試の際に欠席日数が評価の対象になると、不登校が進学に不利に働いてしまいます。学びの保障の意義が損なわれるのではないかと訊ねました。

不登校の児童生徒が過去最多となる中、香川県教育委員会は、公立高校入試において不登校が一律に不利に扱われることはないとの立場を示している。入試では、学力検査や面接、調査書などの内容を総合的に判断して可否を決定しており、出欠状況もその一部として評価されるが、それが単独で不利益につながるものではないと強調している。

また、不登校の生徒が適切と認められた民間施設等で学習活動を行った場合は、中学校長の判断で出席扱いとされ、その成果も調査書に反映できるよう周知しており、各中学校で適切に対応されているという。

出欠の記載については、生徒の状況を示す重要な情報と考えており、現時点で削除する予定はないが、毎年策定される「入学者選抜実施細目」の中で、調査書の記載内容について継続的に協議を行い、状況に応じた対応を検討していく方針である。

医師会との連携による「命の教育」について



「命の教育」について

性情報の氾濫や子どもを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、義務教育が終わる中学卒業までに、子どもたちが性に対して適切に理解し、行動選択できるよう教育することが重要です。各中学校の現場でどのように取り組んでいるのか質問しました。

香川県では、子どもたちが性に関する正しい知識を身につけ、適切に行動選択できるよう「性に関する指導の手引き」を令和6年3月に約

30年ぶりに改訂した。新たな手引きでは、インターネットによる誤った情報や性犯罪など、現代の子どもたちが直面する課題に対応し、学校と家庭の連携例も盛り込んでいる。県教育委員会は、養護教諭等を対象に研修を行い、手引きを活用した実践的な指導を推進している。

各中学校では、保健体育や道徳、特別活動と連携した年間指導計画に基づき集団指導と保健室での個別相談体制を整え、子どもが安心して相談できる環境づくりを進めている。また、性暴力への対応や予防の観点からも体制整備の重要性が示されており、被害を受けた児童生徒の心身の回復支援にも力を入れる方針である。

学校医などとの連携も含め、現場では医療的観点を含めた対応が行われており、今後は他県の先進事例も参考にしながら、香川県の実情に即した「命の教育」の取り組みを検討していくとしている。



県立アリーナ特別委員会にて



2025年2月24日、県立アリーナがオープンし、サザンオールスターズのコンサートやRIZINの格闘技イベントなどでさっそく大きな盛り上がりを見せました。アリーナは高松港の目の前に立地し、駅やバスターミナルとのアクセスも良く、小豆島民にとっても楽しみな施設です。4月に行われた、県立アリーナ整備等に関わる特別委員会で、以下の質問を行いました

周辺離島とアリーナのアクセスについて

Q：イベントの終了時刻を考慮してもらうことや、公共交通機関に臨時便を出してもらうことで、県外や県内の離島からの来場者が利用しやすくなると思われるが、こうした取組の現状は？

A：県では、指定管理者と連携し、フェリーの増便を運航事業者に働きかけてきた。実際に増便が行われるかどうかは各社の判断だが、今後も働きかけを継続する。イベントの開演、終演時間については、主催者側が決定するが、これまでに關しては、夕方開演、20時頃までに終演するものがほとんどで、意見を求められた場合は、早い時間を提案していると聞いている。

アリーナ周辺の移動確保について

Q：高松港からアリーナまでを連絡デッキで結び、エレベーターを設置する計画もあるようだが、フェリー乗り場とアリーナの接続についてどう検討が進んでいるのか？

A：港からの連絡デッキ等については、県立アリーナ開館後の状況を踏まえ検討を行う。現在はイベントごとの人流の把握に努めている。

★フェリー乗り場からアリーナまでの移動は重要であり、安全性という視点も含めて引き続き検討をお願いしたい。公共交通機関でアリーナに來場し、そこから観光する方もいると考えられ、そのような県外からの来場者のスムーズな移動を促してもらいたい。



小泉あつし公式 HP
koizumiatsushi.com



公式 X (旧 Twitter)
[@koichanSOH](https://twitter.com/koichanSOH)



公式 インスタグラム
[@atsushi_koizumi_shodoshima](https://www.instagram.com/atsushi_koizumi_shodoshima)



公式 facebook
facebook.com/Atsushi.Koizumi.Shodoshima

*HPや各種SNS、事務所、報告会などで、ぜひ皆さんのお声を聞かせてください！！

小泉あつし事務所

〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町

TEL：070-9229-5202 開所日：月・水・金 9:30～12:30

皆さんの
お声をお聞かせください！

